

前回委員会以降の各種会議の検討結果

平成 20 年度第 2 回科学委員会【2008.9.29】 [参考資料 1](#)参照

今年度の検討状況について事務局から報告し、特に今年新規登録された他地域との比較等について情報提供や質疑応答が行われた。

顕著な普遍的価値の検討について、事務局から説明を行い、小笠原の遺産価値について、生物の適応放散や地質等各分野から学術的な議論が行われた。また、学術的な議論の積み重ねによって小笠原の世界遺産としての価値を示していくために、今後も引き続き関係者の協力を依頼した。

管理の基本方針について、概ね了承いただいたものの、当初のスケジュールより遅れていることについての指摘があり、事務局にて速やかに調整を進めることとした。

島毎の生態系保全の目標と方向性について、事務局から説明を行い、より積極的な書きぶりや誤解のない表現とすること、島全域の視点に立って外来種対策を実施すること、島毎だけではなく諸島単位での位置づけの必要性、また現状把握についても位置づけるべき等の指摘があった。

第 7 回地域連絡会議【2008.10.2】 [参考資料 2](#)参照

今年度の検討状況や顕著な普遍的価値の検討について、事務局から説明を行い、質疑応答が行われた。

管理の基本方針について、事務局より説明を行い、質疑応答が行われた。科学委員会との役割分担について確認したほか、今後のスケジュールについては、次回会議において、これまでの会議及び委員会での意見を踏まえ、より具体的な案を事務局から提示することが確認され、次回会議までに意見等があれば受け付けることとした。

島毎の生態系保全の目標と方向性について、事務局から説明を行い、父島・母島における島民の生活基盤や利用といった視点の重要性や、地元の意見をもっと吸い上げるべきとの指摘、また属島については訪れる機会の少ない島民にもイメージが湧くような配慮の要望等があった。

平成 20 年度第 2 回外来種対策・自然再生部会【2008.11.4】 [参考資料 3](#)参照

今回会議の検討の進め方と前回部会以降の各種会議の結果報告について、事務局から報告を行い、質疑応答が行われた。特に、地元に対する説明や合意形成の重要性について、指摘があった。

島毎の生態系保全アクションプランの検討について、事務局から説明を行い、島毎・地域毎に、平成 24 年度までの短期目標について詳細に議論を進めた。また種間関係図について各委員より補足・訂正があった。

全体を通じて、「既存の検討会は種ごとに設置されているため、その種の駆除による影響が他の種に及んだ場合に対策を取ることが困難であったが、各事業が連携し総合的な管理を行うための議論は非常に重要である」という指摘や、「小笠原における外来種駆除は、試行錯誤して対策の実施と見直しを継続していくべきであり、世界遺産登録後も科学委員会が最新の知見を事業に反映していく場になることが望ましい」など幅広い継続的なモニタリングの重要性に関する意見等があった。他に、ギンネム対策の遅れや植栽の取り扱いについての検討の必要性が指摘された。

父島については、ノヤギの根絶までの全体計画を検討すべきとの指摘や、ガジュマル・モクマオウ・リュウキュウマツ等の外来植物をはじめグリーンアノールやネコ等の駆除についての助言があった。また、オオガサワラオオコウモリの保護についても検討を行うよう指摘があった。

その他、兄島のシチヘンゲ等外来植物、兄島・弟島・母島等のネコ、賀島の外来植物、南島のクマネズミ等の対策について、種間関係をふまえて議論が行われた。